

## 1. この会社が目指す姿が理解できるか

TIS の統合報告書には会社の使命として「先進的なデジタル技術やノウハウを駆使し、これまでにない新たな発想とやり方で世の中が抱えている課題を解決すること」ということが記載されており、TIS は何を目標とした会社であるか理解できる。また、「グループビジョン2026」として2026年において目指す企業像が掲げられており、近い将来における会社の目指す姿も理解できる。

## 2. この会社の競争優位性が理解できるか

TIS は主に企業の IT 関連業務を支援する企業向けの会社であるが、統合報告書には国内における同業他社の存在やその比較などは記載されていなかった。一方で、東南アジアの IT 関連企業と連携しているという記載はあった。この点が国内の同業他社とは差別化されている点であると読み取ることもできた。

## 3. その競争優位性に持続性があるかどうかいできるか

上に書いたように競争優位性は統合報告書からは読み取ることはできなかった。一方で、東南アジアの IT 企業と「ASEAN トップクラスの IT 企業連合体」の組成に向けて、投資を行っていることが記載されており、これを競争優位性があると解釈すればこの優位性には持続性があると理解できる。

## 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

TIS の統合報告書には人材戦略が記載されている。まず、育成戦略として多様な業務経験が与えられる。これによって、多様なスキルが身に着けることができ、また自身にあった業務を見つけることができると予想される。次に、配置戦略として優秀人材の早期選抜を行っている。これによって、早くから自身の能力を発揮することができる。また、TIS は活躍に応じた評価報酬を採用しており仕事に対するモチベーションの向上が期待できる。以上の点から、TIS では様々な経験をすることができ、早くから自身の能力を発揮する場が与えられるため、自身の人的資本の価値向上を達成できると考える。

## 5. 報告書にはどのような改善の余地があるか

TIS の統合報告書を読んで改善できる点が二つあると感じた。一つ目は競争優位性に関する記載についてである。上にも書いたように統合報告書からは競争優位性を読み取るのが難しかった。したがって、同業他社との比較や TIS の独自性に関する記載

が新たに加われば競争優位性が読み取ることができるようになると思う。二つ目は具体性についてである。人材戦略に関する記載の中で多様な業務経験が与えられるということや早期選抜、評価報酬とあったがこれらに関する具体的な記述がなかった。したがって、これが加わればよりよいものになると思う。